

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 別福会	代表者	高司信太朗	法人・事業所の特徴	「わたくしたちは、地域とともに歩み、地域から愛され信頼され希望ある施設づくりをめざします。」という理念のもとに、ご利用者様を主体とし、地域連携を基礎に寄り添ったケアを実践している家庭的であたたかみのある事業所です。				
事業所名	福祉の森 光町事業所	管理者	貞山智恵						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
										0人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・外部・内部研修の継続(コロナで難しい時はリモートで参加)。 ・各担当者がケアプランの目標について把握・理解できるよう配慮する。 ・家族に対し郵便にてアンケートを行う。	・外部研修については、リモートにて参加。内部研修については、ミーティング時に実施。ミーティングが出来ない時は資料を配布して意見交換した。	・きちんと評価の確認ができるていると思う。 ・連絡ノートは意見交換にはとても必要なことです。アンケート形式にすると答えやすいと思う。	
B. 事業所のしつらえ・環境	・入り口玄関を定期的に換気する事で清潔な空間を保つよう気を配る。 ・新型コロナウイルス等の感染症対策を意識した空間作りを行う。	・定期的に換気、食事前やおやつ前には必ず手指消毒実施。 ・CO2モニターの設置(換気のタイミングを見える化する為)。	・コロナ感染対策がとれていると思う。 ・大変な期間の中、頑張っているのがわかる。 ・コロナ対策は万全のようではこれは、大変よいことだと思う。	
C. 事業所と地域のかかわり	・事業所の広報誌及びパンフレットの内容を見直しを図り、回覧板の活用やコロナ過に合わせたPR方法で事業に関して地域の理解を求めていく。 ・交通安全への参加の継続。	・広報誌は、2ヶ月に1回は回覧板に入れていただきました(光町1区・2区・3区)。 ・交通安全への参加(職員不足もあり参加出来ない時もあったが、今後できるだけ参加出来るように取り組みたい)。	・広報誌はとてもいいですね。中の様子がわかりやすくていいと思う。 ・今はコロナ禍でなかなかできないかもしれません、年に一度くらい施設見学などもよいのではないかと思います。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域の行事等の情報収集を行い、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した上で交流の機会を確保する。	・コロナ禍の為、中止が多々あり行事に参加できていない。 ・利用者様一人一人の地域の方と情報共有し支援できている。	・コロナ感染予防をしたうえで地域行事への参加をしたらよいと思う。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域での取り組みや、心配な方についての情報交換の場として運営推進会議を有効活用していく。	・運営推進委員会もコロナ禍で開催できていませんが、民生委員の方や地域包括支援センター、自治会長さんに必要時は相談や情報の共有を実施。	・民生委員、地域包括支援センター、自治会長と情報の共有を今後も続けてください。	
F. 事業所の防災・災害対策	・今後も今までにない非常事態が起りうると予想される為、引き続き防災・災害対策を行っていく。 ・防災訓練の実施(年2回)	・マニュアルの見直しの実施。職員間で共有する。 ・(予定:11月防災訓練の実施)	・今後も、災害や防災対策に向けて取り組みをお願いします。 ・防災への取り組みとして、どこに避難するか、食料・水分の確認等について考えをしっかりとよい。	